

# 杉並区地域自立支援協議会 議事録

会議名称	22年度第1回杉並区地域自立支援協議会
日時	平成22年6月15日(火) 13:30~16:00
場所	区役所西棟6階第6会議室
<p>&lt;出席者&gt; 高山由美子委員(会長)、佐藤弘美委員(副会長)、濱辺清委員(佐野委員の代理)、柏木委員、鈴木美佳子委員、反町龍弘委員、加藤恵愛委員、田中直樹委員、笹谷亨子委員、前木秀規委員、島川稜子委員、春山陽子委員</p> <p>&lt;幹事&gt; 保健福祉部障害者生活支援課長：未久秀子 保健福祉部障害者施策課長：和久井伸男 保健福祉部杉並福祉事務所高井戸事務所担当課長 森山光雄</p> <p>&lt;事務局&gt; 障害者生活支援課 目黒紀美子、池田恵子、鈴木久、望月俊彦 障害者施策課 阿部茂年、本館睦美</p>	
<p>【次第】</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 開会あいさつ</li><li>2 会長あいさつ</li><li>3 議題<ol style="list-style-type: none"><li>(1) 地域移行促進部会報告</li><li>(2) 相談支援部会報告</li><li>(3) 討議 テーマ「障害者サービスと連携について」</li></ol></li><li>4 報告<ol style="list-style-type: none"><li>(1) 区の取組みについて(重度グループホームの整備、ガイドヘルパー養成講座、区委託の相談支援事業所の整備、発達障害者の社会適応支援事業など)</li><li>(2) 地域のネットワークの取組み(雇用支援ネットワーク、グループホーム世話人情報交流会など)</li></ol></li><li>5 その他 次回 日程等</li><li>5 閉会</li></ol>	
<p>【配布資料】</p> <p>資料1 平成22年度 杉並区地域自立支援協議会委員・幹事名簿</p> <p>資料2 - 1 平成22年度の地域移行促進部会の取組み</p> <p>資料2 - 2 「障害がある方の地域医療についてのアンケート」から見えてきたこと</p> <p>資料2 - 3 わたしの健康ノート</p>	

## 杉並区地域自立支援協議会 議事録

- 資料 2 - 4 22 年度地域移行促進部会 ノート作成プロジェクトチーム
- 資料 3 - 1 平成 22 年度 自立支援部会 相談支援部会 活動計画
- 資料 3 - 2 平成 22 年度 相談支援部会の方向性
- 資料 4 - 1 杉並区地域自立支援協議会設置要綱
- 資料 4 - 2 杉並区地域自立支援協議会 イメージ図
- 資料 4 - 3 地域自立生活支援とネットワーク構築
- 資料 5 - 1 <訂正版> 課題整理表
- 資料 5 - 2 解決策の提案記入表
- 資料 5 - 3 障害者が地域で生活していくために必要な連携

### 【内容】

#### 1 開会あいさつ

省略

#### 2 会長あいさつ

省略

#### 3 議題

##### ( 1 ) 地域移行促進部会報告 ( 資料 2 参照 )

資料説明

< 意見交換 >

アンケート結果のまとめについて

資料 2 - 2 の「まとめ 当事者の健康情報の伝達についての『・精神障害者では...』」及び「まとめ 人的資源の取り組みについて」について、精神障害者当事者と精神障害者の支援者とが感じている問題、捕えている課題の差異結果は、アンケートの設問の仕方や応える回答者によっては、集計結果のようにはならない場合があると思う。人的支援の取り組みは重要であるが、集計結果に現状を反映していない面もあるので、問題がどこにあるのかが分からないと思う。

わたしの健康ノートについて

ノートの活用により、意志を上手く伝えられない時のツールとして使えるとよい。

バインダー方式で使いたいページだけを挟んでおく方法もあるが、使用しないページが分かるようにしておくことも必要と思う。バインダー方式で使う部分だけ挟む形だと、第三者に分かりづらくなるかもしれない。また、バインダー方式はページが破れやすくなるかもしれない。

ページには、自由記載ができる余白があると良い。

ノートの用途や使い方などを当事者(特に精神障害者)に説明しないと使えないものになってしまうと思う。

薬手帳とかぶるので、どういう風に使うのかはもっと明確にしたほうがいい。

##### ( 2 ) 相談支援部会報告 ( 資料 3 参照 )

資料説明

## 杉並区地域自立支援協議会 議事録

### < 意見交換 >

学童期については、今あるサービスは何で、これだけで良いか、良くないとしたら足りないサービスは何かなどを検証していければと思う。

今年度の相談支援部会の取り組みは、相談支援事業所や関係機関の支援者が知り合う、理解し合う、課題を共有し合うことに取り組んでいる。知り合っていくことが体制作りにもつながっていくのではないかと考える。部会にまかせるだけでなく、自立支援協議会全体で取り組めたら良いと思う。

相談支援のケースには、様々な支援の困難さがあるので、それを支えるものと支える者のつながりをつくっていききたい。

### (3) 討議 テーマ「障害者サービスと連携について」(資料4、資料5参照)

#### < 意見交換 >

特別支援学校在学の児童を持つ家庭から、家族の介護負担や卒業後の生活についての相談があった。相談者としては、学校との連携や家庭との関係性の持ち方をどのように展開したら良いか、また短期入所の場の不足を感じている。

学校と相談支援機関との関係で顔が見えないのであれば、相談支援機関から直接学校へ連絡すればよい。相談支援者として地域の資源を知ることは必要である。

直接学校と連絡を取るときに、個人情報保護が気になるが、困っているケースであれば踏み込んで良いと考える。

**地域のサービスや資源を知っておくことは、支援者にとってとても大切である。**

学童期のあるケースで、学校・ヘルパー・地域デイ・保健センター・福祉事務所などの事業所と連携し大切と感じていることは、本人の状況を知り、本人への支援や家庭への支援を話し合えることと思う。結局、地域デイでは受け止められないことが分かり、支援機関同士で地域の課題の共有ができた。また、ケースによっては、連携するだけでなく支援者たちで積極的に関わらないとサービスにつなげられない実践の難しさをも感じた。

就労を希望している障害者への継続支援では、本人との面談、保健センターや福祉事務所と連携しつつ、時間をかけ、ハローワークの面談に同行し就労へつなげ、3ヶ月に一度は面談を実施するなどして就労の定着支援を実施している。

本人のニーズに沿って福祉事務所と相談支援事業所との役割を確認しつつ支援を進めた。このケースで大切と感じたことは、本人のニーズを満たすことの大切さと福祉事務所と相談支援事業所として話し合えるようになったことである。

本人と面談を継続し、サービスにつなげる必要を感じたので、他機関と連絡を取ろうとしたが本人は納得しなかった。本人の気持ちを受け止め、面談をさらに進める中で本人は伸びてきた。

支援の展開で大切にしていることは、本人を中心としたケア会議を定期的実施すること。しかし現実的には、労力・時間的に困難な状況にある。どういうケースにケア会議が必要なのか、会議のやり方やどの支援者と中心に会議をするかなど、会議の枠を考える必要があると思う。

## 杉並区地域自立支援協議会 議事録

虐待のケースの場合、入院している当事者が加害者であることが多い。この場合病院としては、支援者同士の利益が相反するので連携の取り方が非常に難しく、またあり方はどうあるべきなのか考える。

ボランティアセンター事業をしていると、発達障害者がボランティア活動を求めて申し込んでくる。普通学級に通っているが付き添いが必要なので相談に来るなどの状況がある。手帳のない人への支援や活動の場が不足していると考ええる。

成年後見人制度の事業では、本人や家庭よりも周りの支援者が後見人の必要性を感じとり、どのような支援を進めて良いかで困っていることが多い。制度の利用においても本人の個人情報をごくまでオープンにできるかの難しい支援である。

ワークサポートが1階に来たということで顔が見える関係ができた。連携が取りやすくなった。

就労移行支援の場に通っている人の相談などを受けるが、一般就労に結びつける中で多くの関係機関と情報共有ができてよかった。相談支援の連絡会等で顔が見えるようになり、自分のところだけではなく他に相談しながら支援していくという気持ちがスタッフにもできてきている。

初回相談を受けてつなげるところを考えること。問題は当初できた「連携」を持続させていくことが大切であり、大変なところでもある。支援を継続していくためにはケア会議を定期的に行っていくことが大事と考える。

相談支援事業所等で受けた個別の相談について、学校としては、在籍児童のことなので相談・連絡してもらってかまわない。逆に、学校での支援の場合、出していくところがないと感じる。

ピア相談などを行って感じることは、相談や支援の過程で根気よく説明していくことが大切である。

相談窓口が多いとどこを案内していいのかわからない時がある。

自立支援協議会の下部組織の部会で、事例を沢山だしあい積み重ねていくことが大切と考える。協議会でそれをオーソライズする作業が必要と考える。

地方における自立支援協議会は人口1～3万人に1ヶ所を想定している。人口50万の杉並で、協議会が一つというのは無理があるように思える。人口50万の広域地区で一つの自立支援協議会を考えた場合、福祉計画やサービスの計画を点検していくものでもいいように感じる。

ケア会議を定期的に行うことは必要であり、会議で支援方法の優先順位や支援をするにあたってのルール確認などを共有していくことも大切。また、個人情報の取り扱いについては、支援者の考え方や捉え方の違いがあるので、どういうときに、どこまで、どういうふうに対処かなどのルールが作られていくと良い。

今回の討議の切り口で話された意見をスタートに、杉並だったらつくっていけること、考えていけることを協議会と部会で整理していくことが必要である。

### 4 報告

(1) 区の実施について(幹事より口頭報告)

重度グループホームの整備

## 杉並区地域自立支援協議会 議事録

松庵2丁目の区有地に建設を予定である。二つの法人から申し込みがあり6月に委託法人選考をした結果、育成会が実施することになった。今後、建設の住民説明会をし、23年9月の開設の予定である。

### ガイドヘルパー養成講座

地域大学でガイドヘルパー養成講座を実施し、34名が参加した。この養成講座は杉並独自のもので、参加した方は杉並区内の事業所でガイドヘルパーとして活動ができる。

### 区委託の相談支援事業所の整備

7か所目の区委託相談支援事業所の法人選考を6月に実施した。7月に事業開始に向けて準備中である。

### 発達障害者の社会適応支援事業など)資料説明

試行実施として、6月から支援センターすだちで週一回月曜日に実施中である。

## (2) 地域のネットワークの取り組み

### 雇用支援ネットワーク

平成20年度の就労者数29名、21年度18名の実績となっている。今年度の雇用支援ネットワークでは、就労者数をより増やす取り組みとして、作業所などの利用者で就労イメージをどのように持つかについて考えている。

### グループホーム世話人情報交流会

結婚について、本人の交流会、精神障害の学習会、短期入所都の連絡会などの取り組みをしている。

## 5 その他

次回 平成22年11月16日(火)13時30分~16時を予定する。

## 6 閉会

以上